

特定非営利活動法人 日本免疫学会
平成 26 年後期 Tadamitsu Kishimoto International Travel Award
研究発表報告書

申請者氏名	丸山 貴司	会員番号	0032471
申請者の所属・職名	岐阜大学・医学系研究科 テニユアトラック助教		
出席会議名	The fourth International Conference on Regulatory T cells and T helper cell subsets and clinical application in human diseases.		
発表論文タイトル	The nuclear I κ B family protein 'I κ BNS' control Th17 cells differentiation.		

実施結果:

この度は、Kishimoto Tadamitsu International Travel Awardに選出頂きました事、光栄に存じます。岸本忠三教授をはじめ、選考委員、および各種関係者の方々に厚く御礼申し上げます。

また、推薦人となって頂きました東北大学の医学部・免疫学講座の石井直人教授に深く感謝いたします。

私は、11月1日～4日まで、上海で開催されたTreg/Th subset meetingに参加しました。幸運なことに、Preinary Oral section1にて、【Th17の分化誘導に関与する新たな標的として見出したI κ BNSによる知見】を発表する機会を得ました。これまで、最も相同性の高い分子であるI κ B- ζ については、転写制御因子として、ROR γ tと協調しIL-17Aの制御を直接制御する事が知られていますが、I κ BNSはIL-17Aへの転写活性を示しません。I κ BNSが(おそらくNF- κ Bの転写制御を介して)ROR γ tの発現制御を担う事で、Th17の分化誘導を促進する事を示しました。

本学会では、最新のT細胞サブセットに関する知見を多く得る事が出来ました。また、研究を進めていく上で、まずは目の前の小さな疑問に答える事が、大きな答えを得るきっかけになっている事を知りました。また、私の留学中の恩師であるDr. Chen, WanJunにもお会いし、現在、共同研究をさせて頂いている事についての話を詰める事も出来ました。

学会2日目のWanJunの発表を聞く中で、講座としてすべき事が明確である事(WanJunの場合は、TGF- β による免疫制御)、また、継続する事の大切さを感じました。

また、これまでの研究生活の中で、牟田達史教授より【自分の知りたいと思う事を貫くのが研究者である】というご助言を頂いており、今後、自分がどのように研究を展開していくかについても、非常に考えさせられる学会となりました。

日本からの招待講演の先生方も多く、活発な議論がなされておりました。今後、若い研究者の方々が参加されるのに、大変貴重で多くを学べる良い学会だと感じました。

注) 本報告書は手書きでなく、ワープロを使用して作成して下さい。